

標(しるべ) 松下幹生

人生は 標(しるべ)無き道  
幼き日 親の導き 示されて  
個々それぞれに 我が道を決め  
己の道を 突き進む  
人の足跡 追いかけては  
その人を 追い越す事は かなわない

当然に 山谷があり  
海があり 川で行く手が 遮られ  
乾いた道も 泥濘(ぬかるみ)もある  
己の道を 真っ直ぐに  
時には人の 助けを借りて  
決めた道 弱音を吐くな 挫けるな

後ろ指 指されぬような  
生き方で 高峰(たかみ)じゃなくて  
かまわない  
一途に極め 突き進むなら  
己の道は きっと開ける  
微笑む明日を 迎える為に  
我が道を 希望を持って 一人行く